

時次右衛門の知行は矢張り百石であった。
ゴトウジンエモン 後藤甚右衛門 後藤琢乘の門下で、白銀師を職とし、能登七尾に住した。後に金澤に移り、その子に甚右衛門光章・松三郎豊光があり、弟に庄兵衛があつた。世に能登後藤といはれる。

ゴトウセツタイ 後藤雲袋 金澤の俳人。通稱治兵衛、押野屋氏。元來商事を好まず、俳諧を以て屢京橋の間に行脚した。初め梅室の門に學んで遊平・由平・悠平と號し、所居を葵園舎又は陸月庵といふたが、後洪亨の句空庵を繼席した。明治十九年四月十日歿、齡六十九。開ばや・句空庵隨筆・續句空日記等の著がある。

ゴドウタクジ 伍堂卓爾 弘化元年四月金澤に生まれ、幼名龜太郎、後晋格・春格・春開・卓爾と改め、諱は知則、字は敬甫、石澤と號した。文久二年齋を京都の新宮涼庭に學び、三年江戸の種痘所に入つて蘭書を習ひ、慶應元年長崎に往き、三年その地の精得館に於いて蘭人マンズフェルトの教を受け、明治二年三月藩命によりて、和蘭ユートレヒトに赴いたが、その受ける所初等の學で藩用を成すに足らざるを思ひ、九月歸國の途に上つた。是より金澤醫學館に奉職し、七年齋の役以後陸軍に入つて陸軍二等軍醫正に昇つた。大正七年八月五日歿、享年八十四。

ゴトウタクジヨウ 後藤琢乘 通稱孫左衛門、諱は光宗。室町時代の名工祐乘の玄孫で、白銀師を業とし、前田利家に祿せられ、七尾又は金澤に居り、後に歸洛した。

ゴトウタタキヨ 後藤忠清 通稱才次郎。市右衛門清重の次男。白銀師を業とし、才次郎吉定の嫡子才次郎定次が大聖寺藩に仕へたるを以て、忠清は吉定の後を繼ぎ、五人扶持を給はり、老後立意と稱し、元祿十七年三月廿四日歿した。

ゴトウタヘイ 後藤太兵衛 石川郡押野の人。寛永二十年十村に任ぜられた。明暦元年から私費を以て泉野の地を開墾し、萬治元年こゝに泉野新・泉野出二村を創立して藩の賞賜を得、寛文十一年藩命を受けて、小原地内から陣川の上流内川の水を引き、長坂用水を作ることに成功した。

ゴトウテイジヨウ 後藤程乘 京都の下後藤顯乘の子で、通稱を理兵衛、諱を光昌と稱し、白銀師を業として、前田綱紀の時寛文前後上後藤と隔年金澤に來り、彫金に従ひ、又侯の諱伴となつた。程乘の來る時は蓮池苑内の質屋敷に居り、その遺址を後世程乘屋敷といふた。

ゴトウトモモト 後藤興元 大聖寺藩士。幼より父に就き、戸田金剛流の権術・柔術を習ひ、又吉田流の弓術を受けて、其の技特に一藩に秀で、ゐた。興元夙に製茶の江沼郡主要の産物なるを思ひ、茶樹培養の急務たるを唱へ、明治二年藩に請ひ、國道の兩側延長三里餘に、自費を以て茶の實六石を播種し、各所に便所を設け、之を肥料として培養すること三年、將に摘芽の期に至らうとしたが、偶腰藩に際して法令弛び、樹株悉く蹂躪せられて、復持續すること能はざるに至つた。しかもその後生涯を茶業の進展に致すこと二十餘年にして、明治二十七年九月三日六十三歳を以て病歿した。同月五日貸勸局その功勞を録して銀盃一個を賜はつた。

ゴトウノブツク 後藤延次 通稱平八郎。貞享二年父次郎兵衛の配知二百石を受け、御膳奉行・定番御番頭を経て、享保八年神田御前附物頭並となり、百石を加へ、十二年十月廿五日五十八歳を以て歿した。

ゴトウノリキヨ 後藤隆清 通稱七兵衛。七兵衛清實の子。白銀師を業として、享保五年正月廿九日歿した。

ゴトウヒサキヨ 後藤久清 通稱七兵衛。七兵衛清實の子。白銀師を業とし、安永二年八月廿一日歿した。

ゴトウヒロキヨ 後藤廣清 市右衛門清重の嫡子。初め七兵衛、後清次郎。白銀師を業とし、前田利常から切米五十俵を受けたが、後諸職人の切米を召上げられた時、四人扶持とせられた。寛文十年三月廿二日歿。

ゴトウマタスケ 後藤又助 文祿元年前田利家に仕へ、八百石を領して足輕頭となり、慶長四年二百石、五年亦二百石を加へて千二百石に至り、大聖寺の役及び大坂の役に従ひ、元和二年歿した。子孫世々藩に仕へる。

ゴトウモリノリ 後藤守典 通稱平兵衛。平八郎。享保十二年兄平八郎延次の遺知三百石を襲ぎ、延享二年前田宗辰の大小將横目、三年淨珠院附物頭並に任じ、寶曆二年十二月二十日自害して暫く存命、三年正月十六日知行を召放され、廿五日五十九歳を以て歿した。

ゴトウモリシヨウジン 後藤森明神 **ゴトモリ** 鹿島郡淺井に在つた。往古五斗一盛の賢卷にした飯を捧げ、神事終るとき之を參詣の人々に土器を以て直會し、その土器を捨てた所を土器塚といふたが、天正八年以降この祭儀は絶えたと傳へる。この口碑は信じ難い。

ゴトウヤマ 後藤山 **ゴト** 鹿島郡西三階の西方にある山。高さ八四米。

ゴトウヨウスケ 後藤用助 金澤の金屋町が、尙金谷出丸の地に在つた頃、銀座及び吹座を勤めた。金屋丈仁の筆記に、豊臣秀吉の時、前田利家は後藤家の者一人を拜領したきことを願ひ出た爲、用助は金澤に下り、矢山主計と相司になつたとある。寛永十四年閏三月の書簡に金屋用助とあるのも同人である。

ゴトウヨシサダ 後藤吉定 通稱才次郎。市右衛門の次子。白銀師を業とした。生國越後。慶長年中前田利常に召抱へられて金澤に來り、元和五年吹座を命ぜられ、百石を受け、寛永四年の土帳に、百石銀屋後藤才次郎と載せられたもの亦これであり、白山比咩神社所藏の眞柄の太太刀の金具に、寛永五戊辰曆十一月吉日加州金澤住藤原朝臣住後藤才次郎吉定と刻するものも同人である。承應元年歿。その子才次郎定次は大聖寺藩に仕へた爲、家を明清重の次子忠清に襲がしめた。

コトガハマ 琴ヶ濱 鳳至郡劍地の東南なる通稱で、石灰質砂岩層を破つた黒色輝石安山岩の柱狀節理が稀に見る壯觀を呈する。

コトザカ 琴坂 河北郡五ヶ庄に屬する部落。

コトチトウロウ 徹燈籠 金澤兼六園の曲水が籠ヶ池に注ぐ所に石造の虹霓橋が架つて居る。その汀に徹燈籠が立つて、優美な兩脚を水と岸とに跨がせてある。徹燈といふのは、その脚の形が琴柱に似てゐるのを唐めかした名であらう。石川郡粟ヶ崎の木谷藤右衛門がそれを藩侯に獻けたものであるとい